

株主の皆様へ

フジ・メディア・ホールディングス レポート

第71期 中間報告書

平成23年4月1日から平成23年9月30日まで



INTERVIEW

豊田皓社長が語る

次世代を見据えたグループ事業連携による、
強靱なメディアグループとしての展望

TOPICS

上期もトップを維持、下期も好調発進。

「フジらしい」番組作りで三冠王へ！

[特集] フジテレビだからできる、復興支援の新しいカタチ
「復興支援」と「節電」を2大テーマに『お台場合衆国2011』開催！

- ▶ CSR通信 vol.10
高松宮殿下記念世界文化賞・こどもおうえんプロジェクト
- ▶ 株主優待のご紹介

 FUJI MEDIA HOLDINGS, INC.

証券コード：4676



代表取締役会長
(Chairman & CEO)

日枝 久

代表取締役社長
(President & COO)

豊田 皓

メディア・コンテンツ産業のリーディングカンパニーとして

株主の皆様におかれましては、平素よりご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

今期は当初、大震災の影響が色濃く残り、広告市況や消費需要の回復時期を見極めることが難しく、減収を予想せざるを得ない状況でした。そのため、当社グループは、厳しい環境下でも最大限の収益を確保するために、これまで一貫して進めてきたグループのガバナンスの強化や、各社における費用のコントロールを徹底いたしました。その結果、当上期は、映像音楽事業や生活情報事業で増益を確保、広告市況の予想以上に早い回復もあり、減収にもかかわらず、前年同期を上回る139億円の連結営業利益を達成することができました。

Contents

- 01 ごあいさつ (P1-2)
- 02 豊田皓社長インタビュー (P3-4)
- 03 連結業績ハイライト (P5-6)
- 04 グループアウトライン (P7-8)
- 05 トピックス (P9-12)
- 06 (特集)フジテレビだからできる、復興支援の新しいカタチ (P13-14)
- 07 C S R通信 Vol.10 (P15)
- 08 会社概況・株主優待のご紹介 (P16)
- 09 株式情報・株主メモ (P17-18)

表紙のご説明

『お台場合衆国2011』の模様です。詳しくは、P13-14 [特集]「フジテレビだからできる、復興支援の新しいカタチ」をご覧ください。

主力の放送事業においては、7月に地上デジタル放送への移行を無事に完了しました。災害時にテレビメディアが果たした役割や、広告媒体としてスポンサーから寄せられている大きな期待を認識し、テレビの媒体力が改めて見直されていると感じております。高品質・大画面化した映像・音声に加え、今後はデータ放送や通信連携などデジタル時代の新しいサービスも提供し、テレビメディアの媒体価値を一層向上させたいと思います。

欧州発の金融危機や電力供給の不安など、経済環境にはいまだ不透明感が残ります。当社グループはそのような環境下でも、メディア・コンテンツ産業のリーディングカンパニーとして、トップの地位を盤石なものにしつつ、コンテンツから生まれる価値と収益の最大化を目指します。そして、デジタル領域など新たな成長分野へのチャレンジを加速することで、株主の皆様のご期待にこたえてまいりたい所存です。

何とぞ、当社グループへの倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

次世代を見据えて様々なグループ事業の連携を強め、 強靱なメディアグループとしてのさらなる発展を 目指してまいります。



平成24年3月期上期の業績の概要をご説明ください。

東日本大震災による大きな影響を受け、主力の(株)フジテレビジョンは放送収入、その他事業収入ともに減収となりましたが、費用の効率的運用を強く進めた結果、増益を達成しました。また、映像音楽事業はヒット作があったことに加え原価率を改善し大幅な増益となりました。また、生活情報事業は商品力の向上などにより増収増益となるなど、厳しい事業環境の中、ほとんどのセグメントで業績が改善しました。その結果、連結売上高は前年同期比2.9%減収の2,846億18百万円、営業利益は前年同期比19.4%増益の139億18百万円、当上期の純利益も前年同期比48.0%増益の89億97百万円となりました。



(株)フジテレビジョンの業績をご説明ください。

番組視聴率は若年層を中心に多くの視聴者の皆様に支えられ、8期連続となる上期「三冠王」を達成しました。引き続き番組の質の向上に努めご期待に応えてまいります。

放送事業においては、広告収入が第1四半期は震災の影響で減収となり、7月以降は急速な回復をみせましたが、上期累計では減収でした。放送事業全体としても上期は前年同期比3.5%減収の1,341億6百万円となりました。

また、その他事業収入は前年同期比6.4%減収の262億62百万円となりました。イベントはシルク・ドゥ・ソレイユ「ダイハツ クーザ」が好調で増収でしたが、映画やビデオ、MD事業は減収となりました。

一方で、震災後の事業環境の変化に直ちに対応して番組制作費、その他事業費などあらゆる費用の効率的な運用を徹底した結果、当上期の業績は、売上高が1,603億69百万円と前年同期比4.0%の減収となりましたが、営業利益は前年同期比3.5%増益の98億76百万円となりました。



代表取締役社長
(President & COO)

豊田 皓



フジ・メディア・ホールディングスグループの今後について教えてください。

主力の放送事業は、(株)フジテレビジョンを中心に、本年4月に

完全子会社化した(株)ビーエスフジ、CS有料チャンネル、そしてその他の事業との連携を強め、強靱なメディアグループとして発展を図ります。

また、成長分野と位置付けているデジタル事業の強化を図ります。テレビ番組の配信事業は、ドラマの見逃し配信などで顧客層が拡がり、着実に収益に貢献しておりますので、さらなる規模の拡大を目指します。また、「踊る大捜査線」シリーズを皮切りに昨年開始した自社製作映画の有料配信事業も急速に利用数を伸ばしており期待しています。これら配信事業やゲーム事業などデジタル領域は次世代の収益の柱へと育てていきたいと考えています。

映像音楽事業では、(株)ポニーキャニオンにおいて有力なソフトの開拓などビジネス機会の拡大を図ってまいります。また生活情報事業では、(株)ディノスと(株)セシール両社は引き続き費用の効率的運用に努め、また商品開発力をより強化することで、さらなる収益の向上を目指します。その他の各事業も持株会社への移行以来一貫して進めてきた体質強化が一斉に効果を上げています。今後は、新規事業の開拓も含めビジネス機会の拡大を図り、さらに高い利益水準を目指してまいりたいと思います。

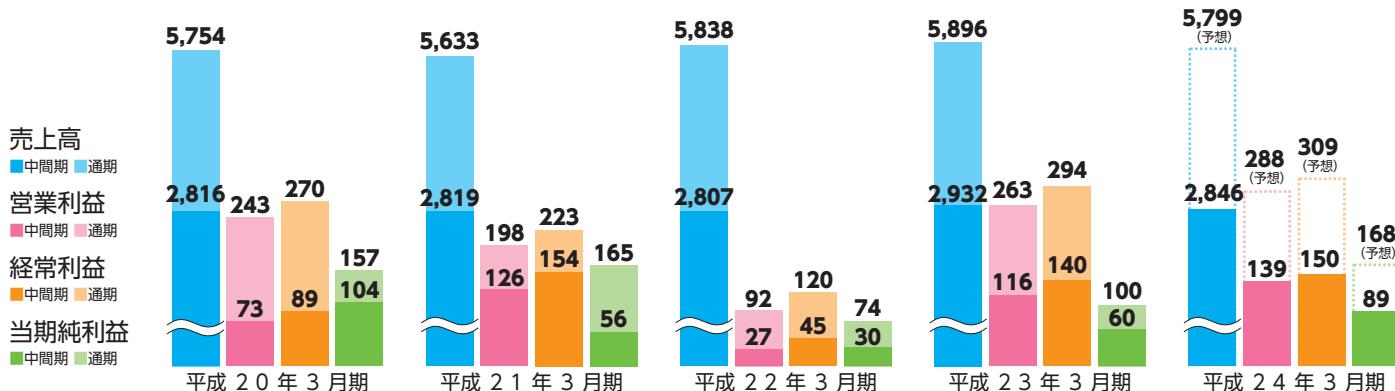
03 連結業績ハイライト

売上高／営業利益／経常利益／当期純利益の推移 (単位: 億円)

当社の財務情報はホームページでもご覧いただけます。

フジ・メディア・ホールディングス

検索



売上高について

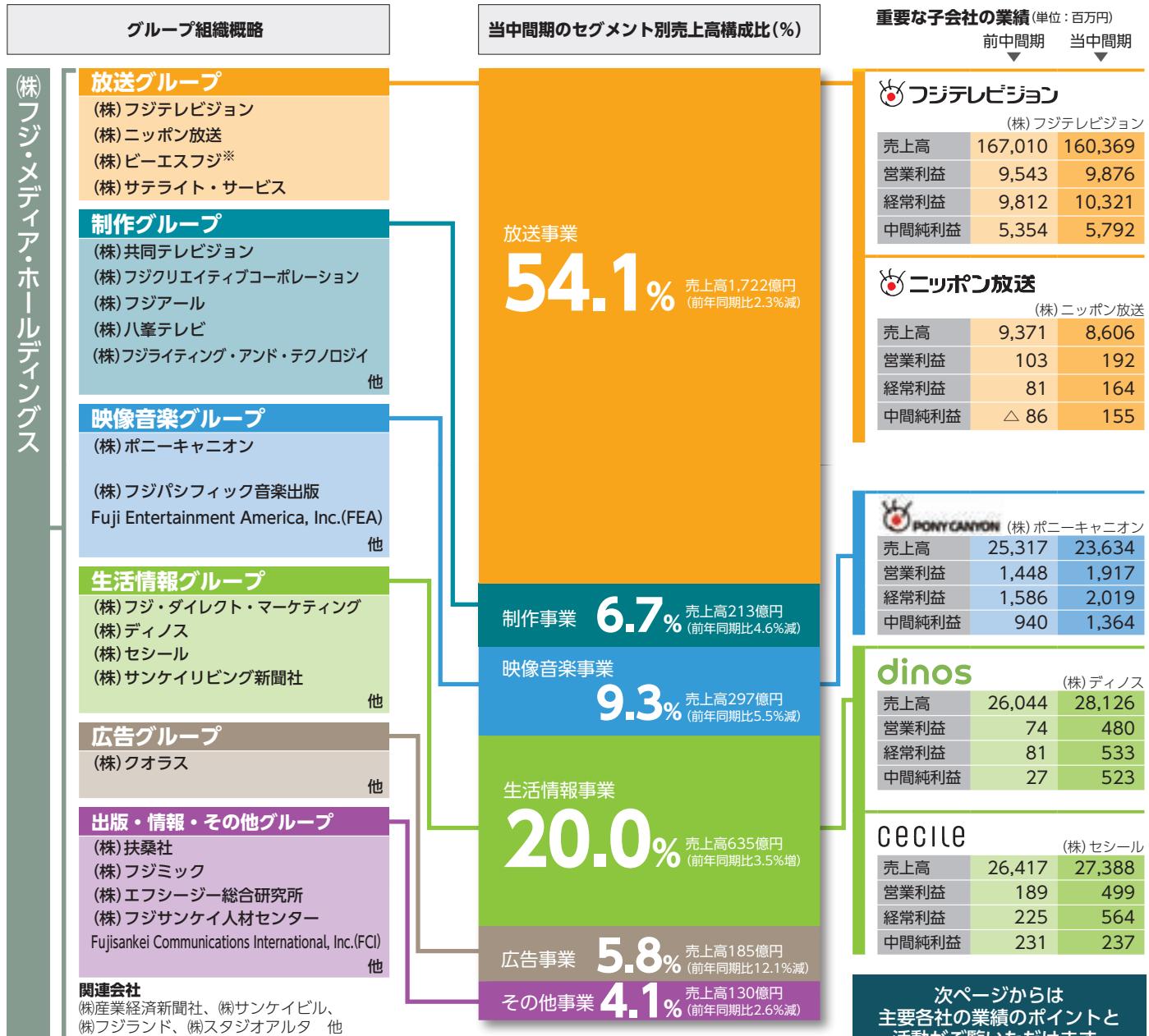
- 震災の影響が大きく、セグメント別では生活情報事業を除き減収。
 ●(株)フジテレビジョンは、震災の影響で上期(4-9月)では減収だったが、第2四半期(7-9月)にスポット収入が回復基調に。
 ●生活情報事業では、(株)ディノス、(株)セシールが増収。

損益について

- 震災による減収の中、費用コントロールにより増益を確保。
 ●放送事業では、(株)フジテレビジョン、(株)ニッポン放送が制作費をはじめ費用の計画的コントロールを継続して増益を確保。
 ●映像音楽事業では、(株)ポニーキャニオンが費用削減により減収増益。
 ●生活情報事業では、(株)ディノス、(株)セシールが増収増益。

	平成20年3月期		平成21年3月期		平成22年3月期		平成23年3月期		平成24年3月期	
	中間期	通期	中間期	通期	中間期	通期	中間期	通期	中間期	通期(予想)
業績データ (億円)										
売上高	2,816	5,754	2,819	5,633	2,807	5,838	2,932	5,896	2,846	5,799
営業利益	73	243	126	198	27	92	116	263	139	288
売上高営業利益率(%)	2.6	4.2	4.5	3.5	1.0	1.6	4.0	4.5	4.9	5.0
経常利益	89	270	154	223	45	120	140	294	150	309
当期純利益	104	157	56	165	30	74	60	100	89	168
財務データ (億円)										
総資産	6,956	6,770	6,739	6,835	7,237	7,531	7,384	7,237	7,304	
流動資産	2,638	2,535	2,570	2,943	3,113	3,446	3,463	3,451	3,552	
固定資産	4,317	4,234	4,169	3,891	4,123	4,085	3,921	3,786	3,751	
負債	2,321	2,209	2,164	2,301	2,620	2,890	2,795	2,621	2,511	
流動負債	1,286	1,154	1,102	1,216	1,394	1,558	1,479	1,298	1,213	
固定負債	1,035	1,054	1,062	1,085	1,225	1,331	1,316	1,323	1,297	
純資産	4,634	4,560	4,574	4,533	4,617	4,641	4,588	4,616	4,792	
キャッシュ・フロー (億円)										
営業活動によるキャッシュ・フロー	69	253	382	847	27	186	236	576	110	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△192	△414	△147	△367	△27	△308	△515	△1,037	△45	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△59	△93	△51	△94	7	253	△99	△333	△29	
現金及び現金同等物の残高	862	801	976	1,165	1,179	1,280	900	481	582	
1株当たりデータ (円)										
1株当たり当期純利益	4,543.45	6,847.60	2,456.35	7,193.40	1,312.82	3,238.69	2,640.63	4,342.98	3,842.05	7,173.52
1株当たり純資産	198,857.04	195,967.51	196,535.60	194,864.16	197,829.43	199,432.99	197,216.11	198,377.85	202,607.77	
1株当たり配当金	1,800.00	1,800.00	1,800.00	1,800.00	800.00	800.00	800.00	1,000.00	800.00	800.00

認定放送持株会社(株)フジ・メディア・ホールディングスのグループは、6グループ22社の中核子会社で構成されています。(株)フジ・メディア・ホールディングスは事業面で緊密な関係を有する関連会社をはじめ、フジサンケイグループ各社と事業・文化活動においてさらに連携を強めてまいります。



※(株)ビーエスフジは、平成23年4月1日に完全子会社となりました。

※このグラフの各売上高は、セグメント間の調整額(33,942百万円)を含む数字です。

次ページからは
主要各社の業績のポイントと
活動がご覧いただけます。



ここからは、主要各社の業績と活動を振り返ってご紹介いたします。

フジテレビジョン

(株)フジテレビジョン

売上高



営業利益



160,369百万円

(前年同期比4.0%減)

9,876百万円

(前年同期比3.5%増)

業績のポイント

- 放送収入は、ネットタイムが、前年の大型番組の反動で減収。震災の影響を受けたスポットも7月以降は回復基調になったが減収。
- 放送外収入は、「ダイハツ クーザ」などの催物で増収となったが、映画、MD、ビデオなどでは減収。
- 前年同期を上回る費用削減により、営業増益を達成。

番組 上期もトップを維持、下期も好調発進。「フジらしい」番組作りで三冠王へ!

フジテレビは、平成23年度の上期において、ゴールデン(19時～22時)、プライム(19時～23時)、全日(6時～24時)の時間帯で、いずれもトップの視聴率を獲得しています。

特にドラマでは「マルモのおきて」が爆発的人気を集め、単に高視聴率番組ということに止まらず、主題歌のヒットなど社会現象として一世を風靡しました。また平成23年度の10月改編でも月9ドラマ「私が恋愛できない理由」、火曜9時「謎解きはディナーのあとで」、バラエティ新番組「ほこ×たて」などフジテレビらしい新番組が続々と好スタートを切っています。

“この秋、もっとフジらしく”をモットーに三冠王に向けて、より視聴者の皆様に愛される番組を作り続けてまいります。



「私が恋愛できない理由」



「ほこ×たて」



「アンフェア the answer」
©2011アンフェア製作委員会



「サウザンド・サニー号」
©尾田栄一郎/集英社・フジテレビ・東映アニメーション

映画 平成23年度上期もスマッシュヒット連発!

「SP 革命篇」は、大震災翌日3月12日の公開にも関わらず興行収入33億円を記録。その後も「プリンセス・トヨトミ」(16億円)、「アングルシア 女神の報復」(18.5億円)がスマッシュヒットを続け、「アンフェア the answer」は上期わずかに2作品しかない邦画実写20億円超え作品となりました。また「ロックわんこの島」は天皇皇后両陛下のご高覧という栄誉を賜る国民映画となり、最新作「ステキな金縛り」は、同じく三谷幸喜監督脚本の「THE 有頂天ホテル」(60.8億円)と同等の好スタートを切り、本年度邦画実写映画最高の興行収入を目指します。一方、有料配信事業では、PC向け、TV向けに続きスマートフォンに向けても配信を開始する等、着実に販路、販売数を拡大させています。

事業 人気アニメ「ワンピース」テーマパークが大盛況!

東日本大震災の影響で「ダイハツ クーザ」東京公演は一時休演いたしました。好評のうちに終了し、大阪公演も大盛況でした。今後、名古屋・福岡と実施し興奮と感動をお届けできるものと確信しています。ゴールデンウィークには国民的人気のアニメとなった「ワンピース」の一大テーマパークを東京ドームにおいて展開し大成功を収めました。また、5年ぶりの招聘となった「ボローニャ歌劇場日本公演」も成功裡に終了しました。



ニッポン放送

(株)ニッポン放送

売上高

8,606百万円
(前年同期比8.2%減)

営業利益

192百万円
(前年同期比86.8%増)

業績のポイント

イベント収入、物販売収入は特に震災の影響が大きく減収となり、放送収入も徐々に回復基調にありましたが、上期は減収となりました。費用面では徹底してコスト削減に努めた結果、増益となりました。

PONY CANYON

(株)ポニーキャニオン

売上高

23,634百万円
(前年同期比6.6%減)

営業利益

1,917百万円
(前年同期比32.4%増)

業績のポイント

映画部門で「SP野望篇/革命篇」「THE LAST MESSAGE海猿」など大作が大ヒットしましたが、前年同期には及ばず減収となりました。一方、コスト削減により、増益となりました。

ラジオの役割 防災意識啓蒙企画を多数発信

4月に福山雅治の「ラジオチャリティ・ミュージックソンSP I'm with Uキミと、24時間ラジオ」を放送し、5月には、防災教育の専門家である群馬大学大学院の片田教授による防災情報番組「片田敏孝のサンデー ズバリ!ラジオ」を放送しました。また、9月には「ニッポン放送防災週間」として、半年間の経験をもとに改めて被災地との繋がりを確認する企画や、多くの専門家の出演による防災の啓蒙などを集中的に発信しました。



片田敏孝教授(右)
森田耕次ニッポン放送解説委員(左)

映画部門の好転により、全社の収益を前年同期比で大幅改善

震災による業績低下が懸念されましたが、物流・製造が早期に復旧し、業績への影響は軽微でした。映画部門では、フジテレビ映画「SP野望篇」「SP革命篇」2作と、「THE LAST MESSAGE海猿」などが貢献しました。映像部門では「製パン王キム・タック」など韓流作品、フジテレビドラマ「外交官 黒田康作」などがヒットしました。また、チャン・グンソクが日本デビュー曲で初登場1位を獲得しました。



dinos

(株)ディノス

売上高

28,126百万円
(前年同期比8.0%増)

営業利益

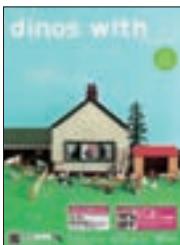
480百万円
(前年同期比542.8%増)

業績のポイント

カタログ通販は、リビング系が節電対策や防災関連商品を中心に売上を伸ばし、ファッション系も好調に推移しました。テレビ通販の新企画オリジナル商品のヒット等もあり、増収・増益となりました。

リビングカタログ好調! テレビ通販でヒット商品も

リビング系商品は、基幹カタログ「ディノス ウィズ」で省電力型の扇風機やワール寝具、防災セットなど、節電対策や防災関連商品が大きく売上を伸ばしました。アニメとのコラボ企画のオリジナル商品「ワンピースカーナビ」は、テレビ通販を中心に4カ月で限定2万台を完売し、9月発売の別バージョンも好調な滑り出しています。また、「心地よく、くらす。」をテーマに、上質なウエア&インテリア雑貨を厳選した新カタログ「DAMA CASA(ダーマ カーサ)」を6月に発行し、売上増に繋がりました。



「ディノスウィズ」

cecile

(株)セシール

売上高

27,388百万円
(前年同期比3.7%増)

営業利益

499百万円
(前年同期比163.3%増)

業績のポイント

テレビCMを効果的に使用したプロモーションや節電特需の後押しもあり、アパレル・ライフグッズ事業が堅調に推移しました。また、卸売事業も新規開拓を積極的に展開し、売上拡大に貢献しました。この結果、上期は増収・増益となりました。

テレビCM中心にプロモーションを展開。[3Dブラ]や節電関連商品が好調

4~6月にかけて、首都圏では7年ぶりとなる本格的なテレビCMのプロモーションを展開しました。放映した「3Dブラ」「ニットデニム」「アンチアレンバーク」は、売上が好調に推移し、業績を牽引しました。また、震災の影響で、今夏は節電や防災への意識が高まったことで、クールビズ関連衣料や涼感寝具、手回しやソーラーで充電できる電源不要の防災グッズ等に需要が集まりました。



「セシールヌ」

その他の各社の状況

BSフジ

(株)ビーエスフジ

進化し続ける 「BSフジLIVE プライムニュース」



「BSフジLIVE プライムニュース」

2009年4月にスタートした提言型報道番組「BSフジLIVE プライムニュース」は、番組放送開始以来「いま日本の抱える本質的な課題」について2時間の徹底議論を生放送でお送りしています。震災以降、いち早く「危機管理」「被災者支援」「国と自治体の役割」「エネルギー政策」などをテーマに「日本復興への提言」を数多く行っています。10月期には提供枠もすべて完売し、営業的にもパワーアップし続ける「BSフジLIVE プライムニュース」にご期待ください。

扶桑社

(株)扶桑社



「アニメ「サザエさん」公式大図鑑 サザエでございま〜す」
©長谷川町子美術館

2期連続黒字に向け好スタート!

上期は、フジテレビ関連本で『おうちで簡単!ピストロスマップ』、『アニメ「サザエさん」公式大図鑑 サザエでございま〜す』が、扶桑社新書で『原発のウソ』(小出浩章著)、『自分の始末』(曾野綾子著)と10万部を超えるベストセラーを4点出版することができました。

看板雑誌の『E S S E』も創刊30周年を迎え、臨時増刊、ムックなど関連図書を多数刊行予定です。



「復興支援」と「節電」を2大テーマに『お台場合衆国2011』開催！

東日本大震災以降、「電力問題」と「自粛ムード」で、日本中のイベントが次々と中止になるという事態が起きました。「お台場合衆国」もやめた方がいいのか…さんざん悩んで出した結論、それはテレビと視聴者の触れ合いの場を作るために毎年力を合わせてやってきたイベントだからこそ、今年は日本を元気にするために役立てようという答えでした。お台場から被災地をそして日本を元気にしたい。そう願って、今年は特別に「復興支援」と「節電」という2大テーマを掲げ実施しました。人気番組のパビリオンに加え、例年の倍近いアーティストが連日ライブを繰り広げ、復興支援のチャリティーイベントも人気を博し、結果的には例年を上回る420万人ものお客様が来場し大成功となりました。



13



「ソーラー発電所」



「NEW EAST KITCHEN」



「めざましライブ(ゆず)」



節電対策

フジテレビ本社屋エリアでは15%の電力削減を実現しました。さらに屋外エリアの「合衆国サンサンアイランド」では、「100%自家発電」を実施しました。海外の電源車を導入した他、国内スポンサー2社から1,150枚のソーラーパネルの提供を受け150㎡の広さで設置し、期間中合計18,531kwh(32型テレビ77,861台分)の電力を賄いました。

被災地支援

被災地に利益を還元し、復興に役立ててもらおうという目的でフジテレビの番組と岩手、宮城、福島の前18市町村が連携し、コラボ商品を開発、「みちのく合衆国」というエリアで特設店舗を作って販売しました。また、ケータリングカーで被災地のグルメの出張販売を実施し、これを番組出演者などが応援しました。

めざましライブ

「合衆国MUSICスタジアム」で行われた「めざましライブ」は連日午前午後の2公演を敢行し、史上最高の78組のアーティストが出演、24万人を動員しました。また、今回は被災地支援のため、NTT東日本の光回線を通じて、岩手県、宮城県など20カ所の被災地の避難所に初めてライブの様子を配信しました。

14

世界文化賞授賞式典、 小澤征爾さんに栄誉

優れた芸術の世界的な創造者たちを顕彰する「高松宮殿下記念世界文化賞」(主催・公益財団法人日本美術協会=総裁・常陸宮殿下)の第23回授賞式典が10月19日、東京・元赤坂の明治記念館で行われました。音楽部門では日本人初となる小澤征爾氏、ビデオアーティストのビル・ヴィオラ氏ら5人に常陸宮殿下から顕彰メダルが授与されました。フジ・メディア・ホールディングスは世界文化賞の趣旨に賛同し支援を続けています。



【写真提供：公益財団法人日本美術協会】

被災地の子ども達に喜びを！ 「こどもおうえんプロジェクト」で継続支援

ひとつに
なるう
日本

フジテレビCSR推進室が中心となり、東日本大震災発生直後に立ち上げた「こどもおうえんプロジェクト」は、フジ・メディア・ホールディングスのグループ各社、FNS系列各局の協力のもと、当初はおもちゃや文房具など合計約3万1千点を直接、避難所等に届けました。6月末からは子ども達の心のケアを考え、フジテレビや系列各局のアナウンサーを動員し、朗読会やオリジナル食育イベントを被災地の幼稚園、小学校などで行っています。3月から11月までの9ヵ月間で、39ヵ所の施設に伺い3,500人以上の子ども達の笑顔と接して来ました。これからも継続して子ども達を応援していきます。



食育イベント「ハロー！どっくん」

15

08 会社概況 (平成23年9月30日現在)

会社概要

会社名	株式会社フジ・メディア・ホールディングス (FUJI MEDIA HOLDINGS, INC.)
事業内容	認定放送持株会社
設立	昭和32(1957)年11月18日
決算期	3月31日
資本金	1,462億35万円
連結従業員数	5,939名
本社	〒137-8088 東京都港区台場二丁目4番8号

役員

代表取締役会長	日枝久	取締役	石黒大	山
代表取締役社長	豊田皓	取締役	横田雅	文
専務取締役	太田英昭	取締役	寺崎一	雄
専務取締役	嘉納修治	取締役	清原武彦	彦
常務取締役	飯島暢	常勤監査役	尾上規喜	喜
取締役	遠藤龍之介	常勤監査役	瀬田宏	宏
取締役	鈴木克明	監査役	茂木友三郎	友三郎
取締役	稲木甲二	監査役	南直哉	直哉
取締役	松岡功	監査役	奥島孝康	孝康
取締役	三木明博			

I N F O R M A T I O N

株主優待のご紹介

フジ・メディア・ホールディングス オリジナル手帳を同封いたしました。株主優待の対象は、毎年9月30日の株主名簿に記載または記録された1株以上を保有する株主様です。



手帳の巻末にはディノスとセシールのご優待クーポンが印刷されておりますので、是非ご利用ください！

ホームページでも
情報公開中！



www.fujimediahd.co.jp

フジ・メディア・ホールディングス 検索

本レポート裏表紙の「はちたま見学パスポート」もご利用ください！

16

株式の状況

発行可能株式総数	9,000,000株
発行済株式の総数	2,364,298株
株主数	66,134名

(注)発行済株式の総数には自己株式及び放送法に基づき名義書換を拒否した株式(外国人持株調整株式)が含まれております。

大株主

株主名	持株数(株)	比率(%)
東宝株式会社	185,721	7.86
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	140,438	5.94
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	115,958	4.90
株式会社文化放送	77,920	3.30
株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ	77,000	3.26
関西テレビ放送株式会社	61,461	2.60
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(退職給付信託口・株式会社電通口)	46,500	1.97
シービーニューヨークオービスファンズ	42,677	1.81
株式会社ヤクルト本社	39,690	1.68
東海テレビ株式会社	29,058	1.23

所有者別株式分布状況

株主数

政府及び地方公共団体	1名	(0.0%)
金融機関	102名	(0.2%)
金融商品取引業者	32名	(0.0%)
その他の法人	497名	(0.8%)
外国法人等	387名	(0.6%)
個人その他	65,115名	(98.5%)

株式数

政府及び地方公共団体	13株	(0.0%)
金融機関	584,024株	(24.7%)
金融商品取引業者	35,557株	(1.5%)
その他の法人	751,931株	(31.8%)
外国法人等	468,389株	(19.8%)
個人その他	524,384株	(22.2%)

注1参照

注2参照

注3参照

注4参照

(注1)「その他の法人」には、証券保管振替機構(失念株式)名義の株式が402株含まれております。

(注2)放送法で定める外国人等の有する議決権数の当社議決権総数に占める割合は19.99%です。

(注3)「個人その他」には、自己株式22,352株及び放送法に基づき名義書換を拒否した株式(外国人持株調整株式)164,621株が含まれております。

(注4)比率は小数第2位を四捨五入しております。

株主メモ

事業年度	4月1日～3月31日
配当金受領の株主確定日	3月31日及び中間配当を行う場合は9月30日
定時株主総会	6月下旬
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都中央区八重洲1丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
事務取扱場所	東京都中央区八重洲1丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告の方法	産業経済新聞に掲載します。

外国人等の株主名簿への記載・記録の制限等

当社は、放送法で定める外国人等(①日本の国籍を有しない人、②外国政府又はその代表者、③外国の法人又は団体、④「①から③までに掲げる者」により直接に占められる議決権の割合が総務省令で定める割合以上である法人又は団体)の有する議決権について、①から③までに掲げる者により直接に占められる議決権の割合とこれらの者により④に掲げる者を通じて間接に占められる議決権の割合として総務省令で定める割合とを合計した割合が、議決権の20%以上となる場合には、放送法の規定により、認定放送持株会社の認定が取り消されることとなります。そのため、このような状態に至るときには、放送法の規定に基づき、外国人等からの株式の名義書換請求等による株主名簿への記載・記録を拒否し、又は、外国人等の議決権行使を制限することができるかとされています。

お知らせ

●配当金計算書について

- 配当金を配当金領収証にてお受取りの株主様へ**
平成23年にお支払いした配当金(平成23年3月期末配当及び同9月中間配当)について確定申告を行う場合は、配当金領収証に同封いたしました「配当金計算書」が添付書類となります。注)「配当金計算書」は、租税特別措置法上の「支払通知書」を兼ねた書類ですので、確定申告の際にご利用いただけます。
- 配当金の受取方法として、口座振込を指定されている株主様へ**
同様に確定申告を行う場合は、同封の「配当金計算書」が添付書類となります。
- 配当金の受取方法として、証券会社にて「株式数比例配分方式」を利用されている株主様へ**
確定申告を行う際の添付書類等につきましては、お手数ですがお取引の証券会社にお問合せください。

株式に関するお手続き

●株式に関する各種お手続き(住所変更、配当金受領方法の指定など)は、株主様が口座を開設されている証券会社にてお取扱いしております。詳しくは、お取引の証券会社にお問合せください(ただし、郵送物等の発送と返送に関するご照会と株式事務に関する一般的なお問合せは、株主名簿管理人：次のフリーダイヤルにお問合せください)。

☎ 0120-288-324

- 株券電子化実施前に証券保管振替制度を利用していなかった株主様の株式につきましては、「特別口座」で管理されております。「特別口座」に関する各種お手続き(証券会社の口座への振替、住所変更、配当金受領方法の指定など)は、みずほ信託銀行株式会社本・支店及びみずほインベスターズ証券株式会社本・支店にて受け付けます。なお、「特別口座」の詳細につきましては、上記フリーダイヤルにお問合せください。
- 払渡し期間経過後の配当金領収証(いわゆる「未払配当金」にかかる領収証)をお持ちの株主様は、配当金領収証に押印のうえ同領収証裏面に記載の送付先にお送りいただくか、次の場所に配当金領収証をお持ちください。
 - みずほ信託銀行株式会社本・支店
 - 株式会社みずほ銀行本・支店
 - みずほインベスターズ証券株式会社本・支店